

ツール・ド・いわき2023 ～ライドふくしま浜海道～

11月5日にアクアマリンパークなどが発着の「ツール・ド・いわき2023」ライドふくしま浜海道～開催。タイムを競わない大会で、ロング（約110キロ）、ミドル（約65キロ）、ショート（約30キロ）の3コースが設けられ、市内外から計904人が参加。海沿いの爽やかな浜風を受けながらサイクリングを楽しんでいました。



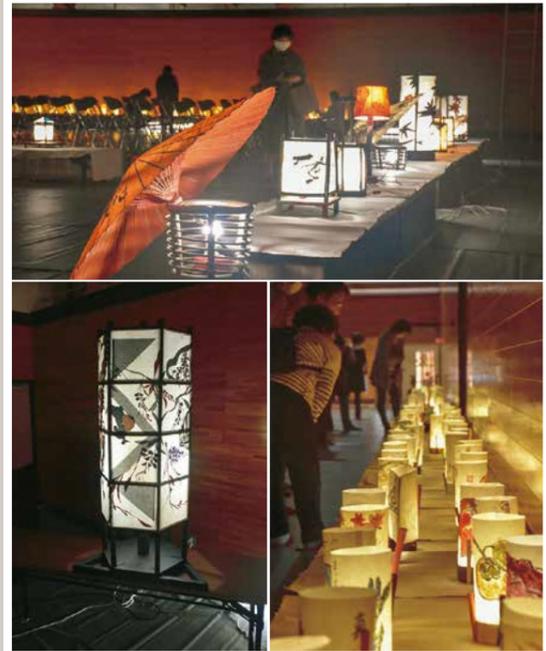
10月4日に開催された「第66回福島県中学校体育大会駅伝競走大会」で勿来第一中学校女子駅伝部が優勝。同校は、4年ぶり3回目の優勝で、12月16・17日に滋賀県で開催される全国大会に出場します。それに先立ち、部員たちが市教育長を表敬訪問しました。



勿来一中女子駅伝部 福島県大会優勝

遠野和紙あかり展

10月21日～11月5日、湯本高校遠野校舎体育館で「遠野和紙あかり展」開催。伝統工芸遠野和紙・楮保存会、いわき湯本高校遠野校舎の生徒、一貫張り工房ゆうの斎藤悦子先生らが製作した照明約200基が展示されました。来場者の皆さんは、会場を彩るさまざまな作品を楽しんでいました。



秋季全国火災予防運動

火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、皆さんの火災予防を見直すきっかけになるよう、全国で火災予防運動を実施。

市内7か所にて幼年消防クラブによる防災パレードやマーチング演奏などを行ったほか、子ども向け防災教室や、消防人形劇、防災ヘリコプターを使った上空からの広報活動などが実施されました。11月11日には、市消防本部検定でS級に認定された湯本第三小学校6年生の太田咲さんが、常磐消防署の一日消防署長として様々な訓練などを指揮しました。



▲錦星こども園年長組による和太鼓演奏



▲防災EXPOの様子



▲一日消防署長の様子



写真が語る「いわき」の歴史

馬が活躍した最後の時代

昭和30年代の高度経済成長期まで、農家では馬はなくてはならない労働力でしたが、農作業に農機が導入されるようになると、馬の「出番」は急速に減少していきます。農家で馬を見るのがなくなったと思われていたとき、仁井田川河口付近で砂利車を引く「一馬力ダンプ」が、風物詩として話題になりました。

一帯は砂が堆積しやすく、河口の流れが塞がれ水害の一因となっていたのです。同所は県立自然公園の指定地域であったことから、無制限に掘ることはできず、このため、解決策の一つとして、昭和43（1968）年頃から計画的に堆積した砂を掘って運んだのです。建設原材料の砂を確保できる、という一石二鳥の利点もありました。

輸送に際しては、近所の農家の人たちが構成する四倉馬車組合が所有する馬20頭余、荷車を使用しました。砂利採取量が限られたため、稼働時間は毎朝3時間ほど。トラック輸送できる集積所までの距離はわずか2百前後です。



仁井田浦で砂を運搬する馬車
【昭和52（1977）年11月 高萩純一氏撮影】

が、3、4往復が精一杯でした。荷車にラグタイヤを装着したとしてもタイヤは砂に深く食い込み、馬の鼻息は自然と荒くなり、冬ともなると吐く息も白くなります。馬運搬による砂利採取は、平成6（1994）年8月が最後でした。セメント瓦を製造する四倉町の工場がピーク時の30軒弱から2軒にまで減少し、需要も少なくなったからです。最後には三頭の馬が役目を果たしました。（いわき地域学會 小宅幸一）